

## ミツバチに配慮した農薬の使用について

亜熱帯農業センター

農薬は病気や虫害の予防、対策として使用されていますが、使用する際には、ミツバチのような有用生物やその他の周辺環境に悪影響を及ぼさないよう配慮が必要です。特にミツバチを放飼している地域に隣接する農地でのネオニコチノイド系薬剤の一部やその他の殺虫剤の使用は、ミツバチの行動に影響を与える可能性がありますので、使用にあたっては、以下の点に注意して下さい。

- ① 近隣で養蜂をされている場合は、ミツバチの活動が活発な時間帯（8時から12時）の散布は控え、ミツバチの活動が停滞している早朝や夕方または曇天時に散布するようにしてください。
- ② 養蜂家の方が季節によって巣箱を移動することがあります。近隣の養蜂家の方との情報共有を心がけてください。
- ③ フィプロニル系薬剤\*はミツバチへ悪影響を及ぼすので、ミツバチを放飼している地域での使用は特に注意が必要です。
- ④ ミツバチは、他の害虫と比べて殺虫剤に対して感受性が高く、散布によって放花活動が低下したり、死亡することがあります。特に開花時期の薬剤散布にあたっては、比較的影響の少ない薬剤を選択するなどの配慮も必要です（下表参照）。

表 ミツバチに影響の少ない農薬

薬剤名	系 統	主な対象害虫
アカリタッチ乳剤	脂肪酸エステル	ハダニ類
アタブロン乳剤	I G R	ヨトウムシ
ウララDF	ピリジノール系イミダゾール	アブラムシ、アザミウマ類
エコピタ液剤	還元澱粉糖化物	アブラムシ、ハダニ類
エスマルクDF	B T	ヨトウムシほか
コロマイト乳剤	マクロライド	ハダニ類
トルネードフロアブル	オキサジアジン	ハスモンヨトウ
ノーモルト乳剤	I G R	ヨトウムシ
バリアード顆粒水和剤	ネオニコチノイド	アブラムシ、ハモグリガ
マッチ乳剤	I G R	ヨトウムシ
モスピラン水溶剤	ネオニコチノイド	アブラムシ、ハモグリガ
モスピラン粒剤	ネオニコチノイド	アブラムシ、ハモグリガ

農薬の使用に際しては、倍率、対象作物、対象病害虫等の登録内容をご確認ください。

\*フェニルピラゾール系殺虫剤 商品名「プリンスフロアブル」など